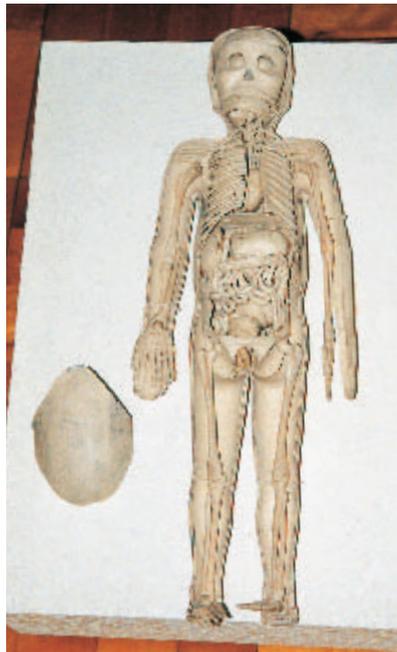


## 79 かいたいにんぎょう 解体人形



指 定 市有形文化財 昭和57年 4月1日  
所在地 田 口  
所有者 小林 美和子

江戸時代の文政5年（1822）田口の解体学者小林文素<sup>ふみもと</sup>が製作した人体模型で、日本でも数少なく本県では唯一のものである。この人形は身長55cmの女体であるが、男体にも変えられるように作られている。

骨はすべて桐材を使い、表面を和紙で整え、血管は芯に銅線を用いている。

臓器、その他の器官は数枚の和紙を型にして打ちこみ、上部を同じように和紙で整えてあり、また大脳、小脳も同様整えられており、必要の都度別々にとり出しができるようになっている。そのほか男性分として、膀胱・前立腺・睪丸・陰茎なども用意され、極めて精巧なものである。

小林文素は、明和6年（1769）田口字大奈良に生まれ、幼名を加蔵、通称準平、文素と号した。田口字神原の叔父小林理兵衛の養子となり、田野口村の代官所に仕えていたが、医学を学ぶため京都にのぼり、西洋医学を、体系的な知識として導入した「解体新書」にかかわりをもった解体学者海上随鷗<sup>ずいおう</sup>の高弟、小森桃塙<sup>とうがわ</sup>に師事して解剖学を修めたといわれている。

文素はこの解体新書に基づき、約1年の日時を要し解体人形を製作したものである。

人体解剖学の黎明期、日本にも数少ない解体人形が、臼田出身者の手によって製作され、いまなお原形のまま保存されている意義はまことに大きい。

小林文素は解体人形製作後の文政8年（1825）、松本において一体を製作したが、これは破損消滅してしまはな。翌9年（1826）57歳で没した。